



# はじめての 万葉集 Vol. 9

## 初瀬の菜摘み

日本に現存する最古の和歌集『万葉集』をわかりやすくご紹介。



籠もよみ籠持ち掘串もよみ掘串持ち  
この丘に菜つぱます兒家聞かな名告らさぬ  
そらみつ 大和の国はおしなべて  
われこそ居れしきなべて われこそ座せ  
われこそは告らめ家をも名をも

（籠かよ、美しい籠を持ち、籠よ、美しい籠を手に、この畠に菜を摘む娘よ。そらみつが徒えているのだ。すべてわたしが支配しているのだ。わたしこそ明かそう、家からもわが名む。）

作者雄略天皇巻一の一番歌

みなさん、「菜つぱのたいたん（焼き物）」に、何を入れますか？

やはり大和では、真菜が多いのでしょうか。関西の他の地域では、しろ菜、小松菜、はく菜のいずれかを入れるところもありますが、菜とつくものなら何でも入れるというところもあるでしょう。

古代の菜も、特に限定ではなく、葉や茎の食べられる野菜全般を指しますが、万葉歌を見ると、海藻まで含み、そのうえ恋の歌の中でも、女性の比喩としても用いられます。

このように、幅広く用いられている万葉歌のなかで、菜が詠まれた最も有名な歌が右の初瀬の歌です。

雄略天皇が作ったと伝わることで、天皇が国土を支配して

いるようすを高らかに歌い上げたもので、冒頭歌としてふさわしい歌だと言われています。

その中に、菜の話が出てくるのは不思議かもしれません、記紀を見ると、雄略天皇は、初瀬の宮殿から外に出かけて、うるわしい女性を見つけては、声をかけて素性を聞くという逸話がしばしば見られます。その際に若い女性は、仕事の最中であることが多い、この歌では、菜摘みをしているところでした。籠と籠をもつて菜を摘むようすは、よく見られた光景だったのかもしれません。

県では、今回の歌を詠んだ雄略天皇に縁のある地を巡るウォーキングコースを設定しています。このコースは、泊瀬朝倉宮跡とみられる脇本遺跡や、万葉集発祥地の石碑や今回の歌の歌碑がある白山神社などを巡ります。詳しくは、「歩くなら『倭王“武・雄略天皇の拠点』」をチェックしてみてね。



答えは来月号を見てね

今月の問題

Q 次のうち雄略天皇の逸話でないのはどれでしょう?  
①求婚した女性を80年待たせた  
②自分たちと同じ格好をした  
神様に出会った  
③死後、白鳥となり天に昇って  
いた

先月の答え

②雄略天皇

クイズ



万葉ちゃん